

社会教育委員会議で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

私は栃木県の社会教育委員を拝命していますが、2月17日、先週の木曜日に、平成16年度の第2回目の栃木県社会教育委員会会議が栃木県の公館でありました。公館は、栃木県庁の西側にある建物で、そこでいろいろな審議会などが開かれます。第2回目の栃木県社会教育委員会の会議は、午前10時から昼にかけて行われました。

栃木県社会教育委員会は、栃木県の教育委員会の一つです。何をやっているのかと言いますと、内山教育長に社会教育に関しての提案をしたり、社会教育についての調査・研究をしたあと、知事に提案や提言をするのがこの委員会の役割だというように私は認識しております。平成16年と17年の2年間で、私の任期です。私を含めて、20名の委員がいます。

教育長より、平成16年度と17年度は「家庭教育支援のあり方について」意見をまとめるようにテーマが設定されました。具体的には、家庭を取り巻く状況について認識をした上で、栃木県として家庭教育関係の事業をどのようになすべきか、また、家庭教育を支援するためにはどのような課題があるかなど、今後家庭教育を支援する基本的な考え方や支援の方策について意見を述べるようにということです。最終的には、教育委員会の教育長や知事に報告書を提出するということでした。

私が1回目の会議で述べさせていただいたのは、社会教育の中で非常に大切なことの1つは規範教育であるということです。そして、物事の判断の基準と申しますか、善悪の判断の基準は、家庭で示すのが一番大事であり、家庭で足りないところは学校で示すべきであると考えます。家庭だけでは気がつかないことも多いでしょうから、学校や社会が支援をしながら、いろいろな方策を考えた方がよいのではないかと申すことです。

私は、「美しい立ち居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」が躰(しつけ)ではないかと思っています。そこで、開倫塾で学ぶ約5500名の塾生の皆さんに「開倫塾15の躰」という躰のプログラムを提示し、実践していただいています。塾ですから、春期講習、夏期講習、冬期講習があり、そして、4月から3月まで12か月ありますので、全部足すと15ぐらいのプログラムができます。これが躰ではないかと考えたことの実践に、1か月に1つずつ、講習会ごとに1つずつ取り組んでいます。

3月、「みんなの靴も手でそろえよう」です。靴を手でそろえることは、非常に大事な躰の1つで、美しい立ち居振舞いになりますので、プログラム化してやっております。9月は、「新聞を読んで考えよう」です。新聞には非常に多様なことが書いてありますので、新聞を読むといろいろなことを考えることができます。また、言葉遣いも勉強になります。そのような考えで、9月は「新聞を読んで考えよう」にしました。開倫塾では、この他にもいろいろなことをプログラム化してやっています。学校でも、このようなことをやられていないところがあれば、やられてみてはどうかと思います。

また、家庭と共同してやられたらどうかということをご提案させていただきました。家庭でも、自分の家の躰について、いくつかの項目をプログラムに組んでやるのも1つの考えだと思います。それを支援してはどうかということをご提案させていただきましたのです。

もう1つ提案しました。心の中の問題として、不登校や学校でのイジメで悩んでいる方が非常に多いようです。暴力で悩んでいる方もだいぶいらっしゃいます。それが、家庭の中で非常に大きな問題になっていることもあります。そこで、できれば、学校には必ずいらっしゃる心の相談員の方の機能を、もう少し結果重視にさせていただいて、結果の出る心の相談にさせていただければということをお願いしました。

開倫塾には、「心の相談室」というのがあります。資格があり、よく訓練されて勉強もしている経験豊富な男の先生と女の先生が担当しています。開倫塾には5500名もの塾生がいらっしゃいますので、中には不登校やイジメなど心の中に問題を抱えている方もいます。いろいろな問題行動を起こす方もいます。5500名もの塾生がいますので、これは仕方のないことであると思います。その方々に対して、結果が出るような形での相談を行っています。学校ですと、クラス担任のメンツなどのために、心の相談員の仕組みがうまく機能していないことが多いと思います。できればそのようなことを度外視といいますか、それはそれで認め尊重させていただいて、よく理解していただきながら結果が出るような心の相談を行っていただきたいと思います。開倫塾では、二人の先生が相談員として活躍していますが、民間でもやっていることですので、結果の出る教育相談をやったらどうかという提案をさせていただきました。

このようにいくつか提案をさせていただいて、社会教育委員会の委員としての任務を果たそうと思っています。ただ、問題なのは、回数が少ないことです。一回一回は活発ですが、2年間で4回ですから、あまりにも回数が少なくてこれではなかなか十分な活動ができないと思いましたので、次は、1学期に1回あるいは1か月に1回の形でやっていただければありがたいということも提案させていただきました。

栃木県には、栃木県社会教育委員会というものがあり、みんなで社会教育について一所懸命検討しています。また、各市町村にも社会教育委員の方がいらっしゃって、社会教育のあるべき姿を検討しています。ですから、是非、皆さまにもご関心を持っていただき、ご意見がありましたら、県の教育委員会や各市町村の社会教育委員会に、そのご意見を寄せていただければありがたいと思います。